



低圧連系太陽光発電の採用を

小規模敷地にも対応

あかりみらい

あかりみらい(本社・

札幌)は、小規模な敷地にも設置できる低圧連系太陽光発電システムの採用を、自治体や事業者などに呼び掛けている。未利用地や休耕地などへの設置を提案。同社はシステムのパッケージ化を含め、調査から設置までの総合コンサルティングで事業を支援する。

北海道電力は昨年、道内のメガソーラーからの受け入れ総量を規制したものの、高圧・低圧送電分は対象外で、50キロ未満で低圧連系が可能な地点での再生エネルギー固定価格買い取り制度では全量買い取りが認められ

ている。

あかりみらいの越智文雄社長は、太陽光発電買い取り価格の下降傾向を挙げ、「ことし3月中に家庭用、小規模の太陽光発電全量買い取りを電力会社と契約すると、37・8円の価格が維持される」と強調する。

システムの導入地として推奨するのが、鉄道の廃線や廃校などによる跡地、休耕地といった未利用地。「200、300坪程度の敷地と配電線があればシステムは設置できる」と越智社長。同社は申請に向けた調査や事務手続きを支援するとともに、太陽光発電パネル、

架台、パワーコンディショナーなどをパッケージで提案。現地に見合った最適設計をサポートする。

2013年度再生可能エネルギー固定価格買い取り制度の申し込み締め切りが3月末に迫り、「手続きに要する期間を含めると実質3月上旬ごろがタイムリミット」とし、事業者や自治体などの積極的な採用を期待。システムを対象とした税制優遇措置も示し、「貸地を含めて設置場所の相談にも乗る」と話している。